

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700748		
法人名	株式会社 エコ		
事業所名	グループホーム 楓の郷 1階		
所在地	福島県須賀川市西田町9-3		
自己評価作成日	平成30年4月27日	評価結果市町村受理日	平成30年8月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	平成30年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の中で入居者様に寄り添い、思いを受け止め、毎日安心して生活が送れるように支援しています。またご家族様と連絡等を密にはかり、ご家族様と共に入居者様を支え、支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. 毎月、本社及び事業所が独自の職員研修を実施する他、外部の研修へ職員を派遣するなど研修の充実を図っている。また、本社では職員の介護福祉士取得のための通信教育を専門学校に委託し本社を会場に実務者研修を実施している。さらに、資格取得試験の費用を補助するなど職員の資格取得や資質向上を組織的に進めている。
 2. 利用者一人ひとりの思いを受けとめ、利用者の希望に沿った生活の実現を目標に職員全員で理念に基づくケアの実践に努めている。毎月、本社所有のバスでの外出や外食を実施し、さらに個別の買い物など利用者の希望による外出にも対応している。また、生活の中に、ハーモニカ演奏やオセロゲームなど、利用者が望む生活や趣味を楽しく意欲を持って継続できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、朝の申し送り時に唱和している。理念と基本方針を踏まえ、常に全職員が共有し実践している。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、事務室に掲示し、いつでも確認できるようにしている。また、毎朝、引継ぎ時に理念を唱和し浸透を図っている。さらに、日々のケアの場面やスタッフ会議で、声かけや話し合いを行い気づきを促し、理念に基づくケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様と地域の行事に参加し地域との交流を図っている。また、日常の生活で散歩などに出かけ、地域住民と交流を推進している。	町内会に加入し、事業所に隣接している公園へ散歩に出かけるなどして住民との触れ合いを続けている。また、地域の文化際に利用者の作品を出品したり、産業祭など地元の祭りに出かけて住民との交流を図っている。さらに、他のグループホームと協同で芋煮会を開催し、近隣住民との触れ合いの機会も設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事などを通して、認知症であっても地域で安心して暮らしていける事をご家族様や地域の方々に理解して頂けるように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	ホームの現状を報告し、率直な意見や指導を頂いている。また地域の行事など地域との交流が図れるようは話し合いを行っている。	年に6回、利用者代表も参加して運営推進会議を開催している。運営推進会議では、事業所の行事、利用者の状況、職員体制、ヒヤリハットの報告を行い、メンバーからは様々な意見が出されている。メンバーの意見により、市の参加を働きかけ担当職員の参加が実現するなど、出された意見を運営等に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況や入居者様の相談、生活保護関係について情報を交換している。情報交換をすることで時にはアドバイスを頂き協力関係が築けるようにしている。	現在、生活保護受給中の利用者が3名おり、市の担当者やケースワーカーと連絡を密にして協議や相談を行っている。また、ケアが困難な利用者に関することや実務上の疑問などの相談を行い、その都度アドバイスを受けるなど、日頃から協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修を受講し、全職員が入居者様の人権を守るということも意識し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	「身体拘束禁止に向けたマニュアル」を作成し、身体拘束に該当する具体的な行為を示して職員への周知徹底を図っている。また、年度当初に研修を実施するとともに、日常のケアで職員が互いに声かけを行い注意を促して、拘束をしないケアの実践に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修に参加し、全職員で啓発と予防に向け取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会などで知識習得の機会は設けているが、活用の事例がない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約、改定などの際には、ご家族様に十分な理解が得られる様に説明し、納得して頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時、ご家族様が相談や意見、要望を聞かせて頂けるような機会を作っている。	利用者の意見や要望は、日常生活のコミュニケーションの中から把握するように努めている。また、家族からは、面会時に利用者の状況を報告しながら、意見や要望を聞く機会を設け、運営やケアの見直しに活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で意見や提案を聞く機会を設け、職員一人ひとりが働きやすい環境作りをしている。	毎月開催しているスタッフ会議で、職員の意見や要望を聞く時間を設けている。また、管理者は日頃から職員とのコミュニケーションを積極的に図り、状況に応じて個別に面談を行い、意見や要望の把握に努めている。また、本社は独自に役付け職員との面接を実施し、出された意見要望を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員一人ひとりの性格や個々の就労状況を把握し、各自が向上心を持って働ける職場作りをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内外の研修に参加できる機会を設けている。職員一人ひとりの性格と力量を把握し、ステップアップできるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、研修等の機会に情報交換や交流を持つ事で、ホームのサービス向上に繋げていけるように取り組んでいる。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様の思いを傾聴受容することでお互いの信頼関係を作り安心して生活できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様にホームでの生活の希望を伺うことで、安心して利用いただけるような関係性を構築している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族様が望んでいることを見極め、サービスの提供をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が自分でできることは行って頂き、一緒に生活しているという関係作りをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	手紙や電話等にて入居者様の状況をお知らせしながら、共に支えていけるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や親せき、馴染みの方々が気軽に来訪し、談笑できるような雰囲気作りをしている。	家族や知人・友人が来訪した時には、居室など好みの場所で、ゆっくり談笑できるように配慮している。家族へ毎月、広報誌を郵送する際に担当職員が個々の利用者の近況を伝える手紙を同封し、さらに面会が途絶えがちな場合には電話でさりげなく面会を促すなど関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの様子や状況を十分に把握しながら職員が間に入り、お互いコミュニケーションが図れるような支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も関係性を保て、またホームとして可能なフォローができるように取り組んでいる。ホーム行事へ招待もしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを十分に取ながら本人の思いを聞くなどして、思いを受け止め寄り添えるように支援している。	職員は、一人ひとりの利用者に1日1回は話かけ、ゆっくりコミュニケーションがとれる機会を設け、希望や思いの把握に努めている。職員は、把握した利用者の希望や思いを受け止め、日常生活の中でやりたい事や好きなことが続けられるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中から情報把握し、今までできていたことや習慣は継続して行けるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活歴を活かした役割や楽しみを支援することで、活気のある生活が送れるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人はもちろんのこと、ご家族様へ状況を報告し、ご家族様の意見を聞きながら、本人の希望に添った支援ができるような計画書を作成している。	ケアプランは、利用者や家族の意向を踏まえ、ケースカンファレンスで職員全員で検討して作成している。また、モニタリングも、担当職員が実施した内容を職員全員で検討して実施している。ケアプランは、3か月ごとの見直しを原則としているが、利用者の状況等の変化に応じ随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの中で十分に観察を行い、職員間で情報を共有し、本人の望む生活が実現できるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の希望等を考慮し、またその時々状況の変化に関する柔軟な支援ができるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様たちの取り巻く状況と地域資源を把握した安心・安全で充実した生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人やご家族様の希望に応じた医療機関を受診して頂き、通院時はご家族様の協力を得ながら対応している。訪問診療を受けている方へは、医師と連携を図り適切な医療を受けることができるように支援している。	本人や家族の希望で医療機関を選択している。かかりつけの受診は家族の協力により受診しており本人の状況を家族に伝えるとともに受診結果を聞き記録している。協力医の往診の場合は診療結果の記録のコピーを家族に渡し情報の共有を図っている。医師へ本人の健康状況を的確に伝え信頼関係づくりに努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の訪問看護師へ入居者様の状況を報告し、必要な助言などを頂くことで、適切な医療を受けることができるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は定期的な面会や医療関係者に入院時の状況を確認、退院時にはホームでの生活についての助言を頂くなど、医療関係者との関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に事前確認として同意書を頂いているが、状態の状態の変化時に再度確認をし、関係者と支援できるように取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期の対応を説明し、家族や本人から希望を聞き同意書を取っている。看取については、研修を行うとともに訪問看護ステーションとも連携し体制を整えている。状態変化時の対応についても医師の説明、家族の希望の再確認をすることとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内で月1回救命救急法の訓練を行い、実践力を身につけるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜を想定した火災や地震時の避難訓練を毎月入居者様と共に実施している。定期的には元消防職員にも参加して頂き指導を受けている。	消防署立ち会いの避難訓練を2回実施するほか毎月火災や地震等夜間も含めた避難訓練や通報訓練を実施している。区長や民生委員、消防団の参加もあり協力体制が出来ている。水や米、缶詰、コンロなど備蓄もしている。現在家主の承諾を得て近隣の協力を頂ける方への緊急通報システムの設置を進めており、より、今後地域との連携が深まると期待できる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の尊厳を考えた声掛け対応することを職員同士配慮しながら行っている。	グループホームの理念に礼儀、敬愛の心を持ったケアを入れ、毎朝唱和するほか接遇研修も行い利用者の人格を尊重した支援に努めている。声掛けも不適切でないか職員同士注意し合っている。入室の際の声掛け、トイレ時の配慮等人権やプライバシーに留意した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の日々の生活の中で、思いや希望を確認しながら自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の生活スタイルを大切に、本人の希望に添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常生活の中でその人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	食材の下ごしらえや食後の食器拭き等を会話しながら楽しくできるように支援している。食事職員と一緒に食べ、楽しい食事になるようにしている。	利用者は野菜の筋とり、皮むきなど出来る作業に参加している。職員も一緒にテーブルを囲み利用者一人ひとりのペースで食事を楽しんでいる。隣に畑があり利用者と野菜を育て食材に活かすなど季節を感じるものとなっている。また、月1回外出に出かけるなど食事を楽しむ支援を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態や食事摂取量、水分摂取量を把握し必要な摂取量が確保できるように個別に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後と就寝前に入居者様の口腔状態に合わせたケアを行っている。必要に応じて歯科医への通院や往診の対応も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的に声掛けを行い、一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、個々に合わせたトイレ誘導等を実施している。	排泄状況を記録し、それを活用しながら一人ひとり配慮した排泄支援を行っている。トイレは居室にあり、プライバシーが守られる環境で、ゆっくり落ち着いて排泄できるようになっている。支援により、リハビリパンツから布パンツに変わる利用者もいるなど排泄自立に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量や水分量を把握しながら、運動を促したり、必要に応じて主治医へ相談しその方にあつた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそつた支援をしている	入居者様の希望の沿つた入浴時間等の対応をしている。また入浴時は会話の機会を持つなど楽しく、気持ちよく入浴できるような支援をしている。	入浴は機械的に時間を決めるのではなく本人の希望する時に行っている。週2回から3回を目安としているが利用者によっては希望によりそれ以上対応する場合もある。入浴剤や季節風呂などを活用し楽しみながら入浴できる支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に合わせて対応し、安心して睡眠が取れるような支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服状態を職員が確認できるようファイルを使用している。副作用等についても理解を深め症状等の変化に対応できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごして頂ける様、掃き掃除や洗濯ものたたみなどできる事は行っていただき、やりがいを感じて頂ける様な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状況や希望に応じて、外気浴や散歩、ドライブなどの外出支援の機会を設けている。また、家族様の協力を得て外出する機会も設けている。	月1回、バスを活用し、普段行けない遠方も含めた外出を行いドライブを楽しんでいる。また、本人が希望する場合は、食材の買出しの際などに個別対応できるよう努めている。家族の協力でお墓参り、外泊などで外出するほか友人の協力で以前から参加していた集まりに出かける方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は本人がお金を持つことの大切さを理解し、一人ひとり希望に合わせて買い物ができるように外出時など支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様に毎月手紙を送付し入居者様の状況を報告している。また入居者様の希望に合わせていつでもやり取りができるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温や音、日差しなどに常に配慮している。また季節に合わせた掲示物を取り入れるなど季節感を感じて頂ける様に環境作りをしている。	壁面には利用者と一緒に制作した作品や写真入りのお便りが飾られている。エアコンで空調され、外からの音なども気にならない。歌やゲームのほか個人的な趣味活動を楽しむなど居心地よく過ごしている。また、観葉植物や花が置かれ、季節感を感じられるなど居心地良い環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士の相性などを考慮し、入居者様同士で談笑しながら過ごして頂ける場所を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	今までの生活習慣が継続できる様、また本人が落ち着かれる室内となるよう、写真や馴染みの物を持ってきて頂いている。	居室は椅子や筆筒、テレビ、家族の写真、手紙等これまでの暮らしが感じられるものが持ち込まれ、安心して生活できるよう工夫がなされている。毎日居室担当が利用者と一緒に清掃している。ものとりれ感が強い場合、家族の協力も得て整理するなど安心して過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のできること、分かる事、ケアが必要なことを見極め、安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう手すりの設置などの環境への配慮をしている。		